

4. 基本コンセプト

『開かれた美の探求と創造のコミュニティ』

～『創造』と向き合い『美』が連携する 街のようなキャンパス～



●大学の活動を発信する「アートプロムナード」の一部にガラス覆いを設けるなど、半屋外空間を随所に設置し、雨や雪が多い北陸の気候に配慮



●創作に集中できる「創作の庭」に面してリング状に「共通工房」を配置し、全ての学生が領域を越えて利用できる効率的な制作環境を構築



●キャンパス内の随所に設ける「アートコモンズ」を多様な作品の展示や合評が行える環境とし、学生相互が刺激しあえる空間を整備



●隣接する用水沿いに遊歩道を整備し、地区の回遊性を高めるとともに、周囲の道路沿いには歩行者空間を設け、キャンパス周辺の歩行環境向上に配慮



●キャンパスのエントランスとなる広場をアクセス道路沿いに整備し、その地中に雨水貯留施設を設け、敷地内の雨水流出を抑制

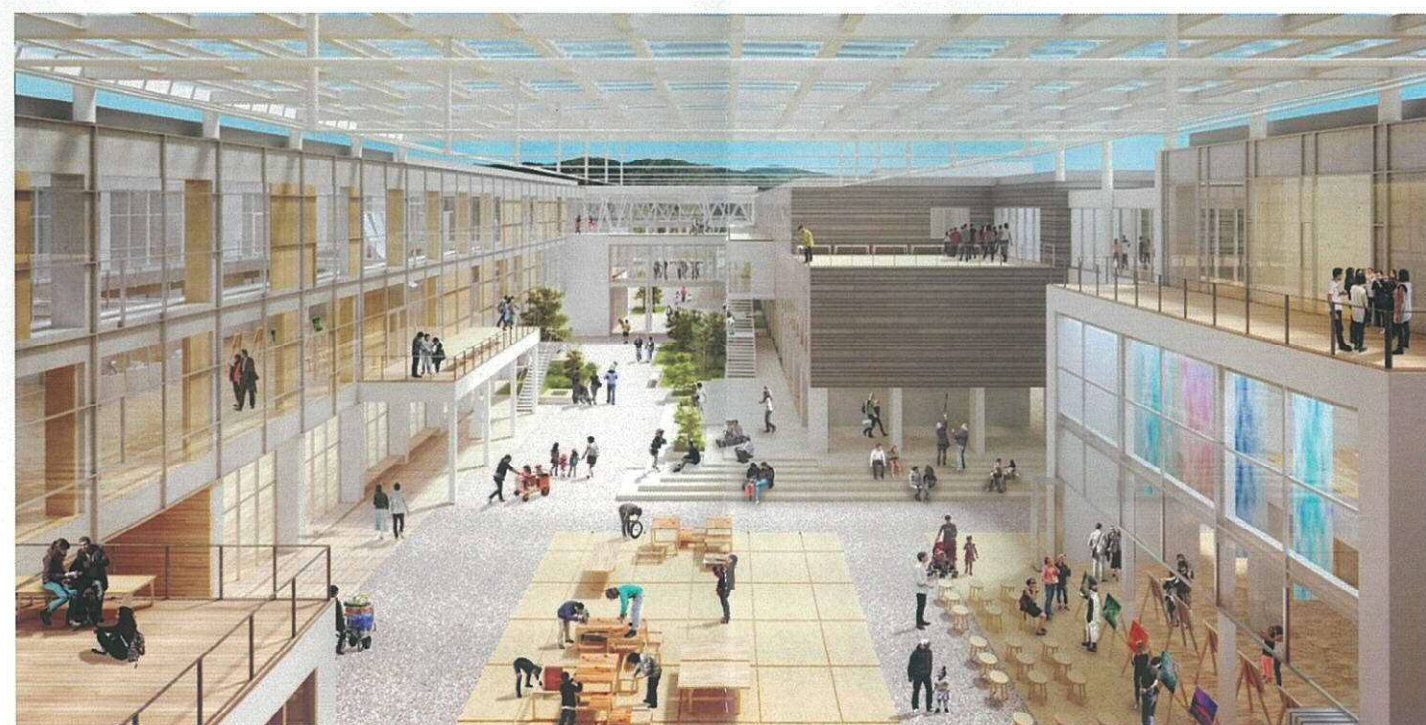
5. 今後の予定

令和2～4年度	建築・設備工事
令和5年度中	キャンパス移転

金 沢 美 術 工 芸 大 学
Kanazawa College of Art

NEW CAMPUS

～開かれた美の探求と創造のコミュニティ～



金 沢 市

1. キャンパス移転背景

金沢美術工芸大学は、1946年（昭和21年）、戦後の混乱と虚脱のなか、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立されました。

昭和30年には4年制大学として認可され、美術・工芸・デザインの各分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、これまでの間、多くの人間国宝や第一線で活躍するクリエイターを輩出し、国内外の文化・芸術の発展を支えてきています。

しかしながら、大学の活動拠点である現キャンパスは、築40年を経過したことによる老朽化が著しく、また、建物の耐震性や制作スペースの不足等多くの課題があることから、金沢大学工学部跡地へのキャンパス移転が決定しました。

2. 施設概要

所在地	金沢市小立野2丁目933番5		
敷地面積	47,275 m ²		
構造規模	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上3階、地下1階		
延床面積	約 37,400 m ²		
	校舎（附属棟含む）	約 32,400 m ²	
	図書館・美術館	約 3,200 m ²	
	体育館（多目的ホール）	約 1,800 m ²	
建設工事費	約 139億円（外構を除く）		

3. 設計者

SALHAUS・カワグチテイ建築計画設計共同企業体

